

閉館後の観察園整備



石狩サイエンスフェスの様子



いしかり生きものかけはし座談会の様子



12月の保護センター



石狩浜海浜植物保護センター通信 MAR 2023

はまぼうふう

令和4年11月3日に、今年度の開館は無事終了しました。
開館後も札幌市や石狩市で開催されたイベントに参加して海浜植物のお話をしてきました。
4月29日から令和5年(2023年)の開館もスタートします。
今年もどうぞよろしくお願いいたします!!

今月のトピック～石狩浜の自然、イソスミレ調査から見た植生～

令和5年2月25日に石狩市環境課主催で、「いしかり生きもの座談会」という、石狩市の自然についてお話する講演会を開催しました。その中で石狩浜の植物について紹介した一部をお知らせします。

絶滅危惧種に指定されているイソスミレは、海浜性の日本固有種のスミレです。そのイソスミレが石狩浜でどの場所に、どんな植物と一緒に生育しているかという調査をしました。環境の異なる4か所の生育地を比較すると、イソスミレの個体数が多い場所では、コウボウムギ、ハマハタザオ、ハマヒルガオなどの他の海浜植物の割合が高い傾向にありましたが、個体数の少ない場所では背の高い内陸性の植物が多くみられる環境でした。その結果から、内陸性の植物が多い環境は、海浜性のイソスミレの生育には適していないことが考えられました。別の調査からは、1989年から2022年で石狩浜の内陸性植物の比率が増えていることが分かっています。

これらのデータから、石狩浜のイソスミレは今後、内陸性の植物の増加とともに、衰退していくのではないかと考えられます。一部の調査データではありますが、こういった調査データを合わせて海浜植物の保全へとつなげていくことが大切です。



写真.イソスミレ

観察園・ハマナス再生園 NOW☆～冬支度～

保護センターの観察園は、とても大忙しです。自然に生育する石狩浜の海浜植物は、冬の間、冷たい風に吹かれ、砂が飛び、積もった雪の下で春が来るのを待っています。保護センターは海に近い場所ですが、自然の環境と全く同じではありません。そのため、海浜植物が自然環境に受ける影響を考えて、わざと砂をかけたり、耕したり、枝を切ったりします。しかし、全く自然と同じにはならず、植物の種類によってはどうしても姿を消してしまうこともあります。そういった種については、タネから苗を作って植えることもしています。

これらの作業を続けていくことで、どんな植物がこういった環境に生育しやすく、こういった手法をしたら生長しやすいかという情報が蓄積されていきます。その情報は少なくなった海浜植物を再生する一つの情報として、保護センターでは引き続きまとめていきます。



写真.掘り返しの様子



写真.苗の補植

石狩浜海浜植物保護センター通信 はまぼうふうVol76 2023(令和5)年3月発行

編集・発行 石狩市環境市民部 石狩浜海浜植物保護センター

連絡先 ☎:0133-60-6107 FAX:0133-60-6146

✉:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

所在地 〒061-3372 石狩市弁天町48番1

開館日 4/29～11/3 10:00～16:00

休館日 火曜休館・祝日の場合は翌平日

ホームページ <https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/site/kaihinsyokubutu/>

